

概要報告

実施期日	令和7年8月1日(金)
部会名	小学校 音楽部会

研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

テーマ『音楽のよさを感じよう～自分と友達、そしてみんなで～』

提案概要

- 6年生、題材『思い出のBGMを作ろう』、思い出に残る場面をもとにした作曲、音楽づくり
- イメージを伝え合うことを大切に授業をしてきた。
一方で、アンケート結果から表現することに課題があった。
- 考えを広げたり、深めたりすることに課題を絞った。(思考・判断・表現力)
- 単元を通して計画を立てた。全6時間授業で計画。
- 具体的な手立ては3つ。
- ①常時活動 → 年間を通して音楽を形づくっている素に触れた。
ピアノを聴いて感じたことを、音楽の要素(言葉のカード)を踏まえて言葉の整理をしたり、リズムだけで想像したりする活動を大切にした。
- ②主体的な音楽づくり → 作曲アプリの活用
一人一曲の曲づくりに取り組む。ホワイトボードに進行状況を可視化できる手立てを行い、自然と子ども同士が関わったり、助け合ったりできる環境を作った。
児童の実態に合わせて、他のコード進行を提示したり、拍頭や終わらせ方を意識できるような声掛けをしたりした。
- ③協働的な音楽づくり → 意見集約アプリの活用
イメージに合うように、全体で考えを共有する時間を設けた。
課題を解決でき、グループで聴き合うことのよさを味わうことができた。
- 鑑賞・歌唱にも音楽の要素が見られる場面があり、思考の深まりが見られるなど効果が見られた。
- 作曲が好き、工夫をしているなど、アンケート結果の向上が見られた。
- 発表の場を設けて、目標をもつことも有効であった。
- 実際に鬼ごっこをするなど、原体験を共有することで、話し合い活動の促進にもつながった。

質疑応答

特になし

協議の柱及び協議概要

キーワード：音楽を形づくっている要素、創作テーマ、素材・グループ活動

- 主体的な学習となる授業デザイン
- 協働的な学びを深める手立ての工夫

- 素敵な提案だった。音楽を形づくっている要素を扱えるのは、これまでの積み重ねがあってこその実践だった。
- ICTの有効活用が見られた。すぐにできること、色々と試せることがよかった。
一方で、みんなで一緒に活動することが難しい面も踏まえる必要がある。
- 話し合い活動が素晴らしかった。これは、他教科にもつながる。
- グループ活動には、得意な子が多くを先導してしまう一面もある。また、何を評価するかの難しさもある。
- アプリの有用性、その場での修正ができるなど、メリットが見られる。

- 支援を必要とする児童にとって、ICTはとてもよい支援になると思う。
- 完成する「前」に話し合い活動があり、進め方がよかった。
- どちらの実践も、共通の体験から、音楽づくりが進められていた。題材の選び方がよかった。

まとめ概要

ICTの活用が多く見られた。中央教育審議会では、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした指針があり、GIGAスクール構想との関連も見られる。

音楽室の掲示物が非常に充実していた。特に、音楽の要素を可視化することが大切。音楽の言葉を、日頃から繰り返し使うことが授業実践に反映されている。また、情報機器のモラルが徹底している。必要なことを必要な時だけしている。

協働学習の中で、音楽の言葉が根拠となっていることがよかった。原体験を大切にしていることが、授業実践につながったと思う。

中学校の提案については、地域素材を生かして、総合的な学習の時間と関連していた。カリキュラム・マネジメントとも関わっていた。地域や他教科とも関連することのよさが現れていた。特に、4科目の先生同士で話し合えるといい。職員室からよい雰囲気を作っていくことが、児童・生徒のよい雰囲気作りにつながる。

ICTは、あくまでも道具。作曲アプリへの吸収力も素晴らしいものであった。その上で、先生の問いかけが重要になってくる。教科横断的な面も含めた素晴らしい発表だった。

今回、小中学校の両方の先生方が集まる中で、共通して音楽作りがテーマとなり、今後にもつながる発表になった。